

藪塚鉱泉の起源と歴史

藪塚温泉の源泉が発見されたのは、今から約700年前頃といわれています。当時、温泉神社にあった大きな岩の間より温泉が湧き出ていました。

元々は温泉でありましたが、後に冷泉へと変わってしまいました。その後に、冷泉を汲んで温めて入る様になりました。

1736年、藪塚温泉は初めて官許を得ました。1781年のころには極めて賑やかであったそうです。その後、1818年のころ一時衰退してしまいました。

1875年、今井弥造・伏島近蔵の両氏が協力して内務省に分析を出願し、その許可をへて旅館施設も増え、近隣町村に知られることとなり、浴客も年を追うごとに増え、盛況だったそうです。

当時、食事は仕出屋が受け持っていました。大正期から昭和初めにかけては仕出屋の全盛期でした。その他にもアメ・菓子・雑貨や団子屋に理髪店、土産屋なども並んでいました。

大正2年、東武鉄道の太田-相生間が開通し、藪塚鉱泉には東京や埼玉方面から訪れる客が大幅に増えました。

昭和23年の温泉法の改正により、泉質分析結果の中に薬効のある鉱泉は冷泉であっても全て「温泉」と呼称されることとなりました。藪塚温泉の誕生です。しかし、燃料事情が悪く、風呂はひとつずつしか沸かすことができませんでした。つまり混浴を余儀なくされたのです。ところが、その混浴がうけて客は集い、藪塚温泉は活気をとりもどしました。

昭和55年には三日月村が誕生しました。そしてこの年藪塚を訪れた客はおよそ40万人を超えたのでした。最盛期には100万人を超えて藪塚温泉は群馬の八大温泉地のひとつに数えられるまでに成長しました。

現在の藪塚温泉は5軒の旅館が営業しています。国内旅行客の他に、海外から訪日利用客やビジネスマンの利用客が多くなっています。